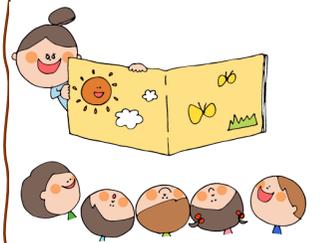


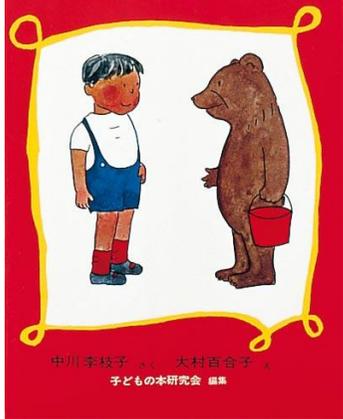


絵本だよりとおすすめ絵本を発行して1年が経ちました。そして、あそびの杜保育園の子ども達も同じだけ、たくさんの絵本と出会いました。5歳児の子ども達は、少しずつ絵本ではなく幼年童話という絵のない本の読み聞かせを始めています。絵がないお話は集中できないかな??と心配でしたが、子どもたちは目を輝かせ、読み聞かせのことばを聞いて笑ったり驚いたり…思った以上に楽しんでいます。お話を聞くことが大好きな子どもたちです。

お話が終わった後は本の挿絵を「見せて!」と来るのですが、挿絵を見ながら「あっ、おもったのとちょっとちがった」という子がいました。これです。これが大事。自分で想像しながらお話を楽しむ…「ああ、この子はどんな絵を浮かべながらお話を聞いていたのだろう」と、とてもわくわく、そしてうれしい気持ちになりました。



いやいやえん

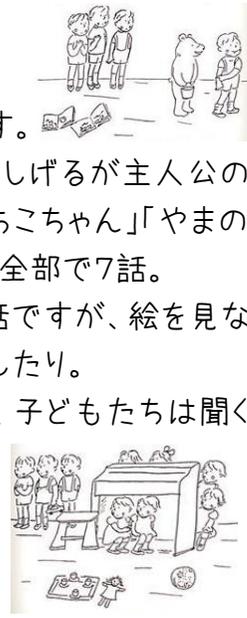


年長さんへの読み聞かせ本 「いやいやえん」

元気な保育園児しげるが主人公の楽しいお話です。元気だけど、わがままできかんぼうの保育園児 しげるが主人公のお話です。「ちゅーりっぷほいくえん」「くじらとり」「ちこちゃん」「やまのこぐちゃん」「おおかみ」「山のぼり」「いやいやえん」全部で7話。1つのお話は10分から15分です。少し長めのお話ですが、絵を見なくても聞こえてくることばに、笑ったり、心配そうにしたり。

1話より2話。2話より3話…読み進めるごとに、子どもたちは聞きながらイメージし、理解し、そして記憶にとどめる。

話を聞くことが苦手と言われる子ども達ですが、



聞きながらイメージし、理解し、そして記憶にとどめる。

まだ数回の取り組みですが、子どもたちの大きな変化を感じています。

手始めに「うさぎのみみは なぜながい」をよみました。メキシコの民話です。

「わたくしを もっと 大きな体にして下さい」とウサギは神様に願いました。神様は、「よし。おまえが とらと、わにと、さるとを、じぶんの てで ころしたら、ねがいをかなえてやろう」といいました…ちょっと残酷な表現があり、読む前は「どうかな?」と少し心配しましたが、子どもたちはちゃんとお話として聞いていました。保育園の図書室にも置いてある絵本なので、読んだことのある子もいて、少し長めのお話ですが、絵を見せない読み聞かせも集中してよく聞いていました。絵本を見たことがある子は、絵を思い浮かべながら楽しんでいるようでした。民話、童話、昔話の絵本は、何度か読んだ後に絵を見せない読み聞かせをするのも楽しみ方の1つです。



「イワシ むれでいきるさかな」 福音館の「かがくのとも」シリーズの絵本です。

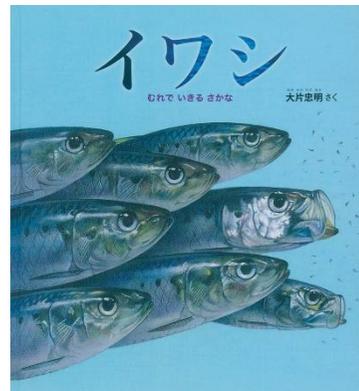
海の向こうからやってきた大きな黒い影はイワシの大群。そのイワシの群れを狙ってコアジサシがやってくる。次はブリ、さらにはクジラが襲います。数を減らしたイワシの群れを今度は人間の巻き網が襲い一網打尽にしてしまいます。

イワシの群れは、ずいぶん小さくなってしまいが、小さくなった群れは合体し、やがてそれぞれが何万個もの卵を産み、稚魚となり、イワシはまた大きな群れへと戻る。こうしてイワシは「群れで生きる」ことで、厳しい自然を生き抜きます。

海の青さはとてもきれいに描かれ、大きな口をあけたイワシは細部まで丁寧に描かれており、図鑑を見ているようです。

新しくできたイワシの群れも、ほかの生き物に何度も狙われる。でも、数えきれないほどたくさんいるイワシはすっかり食べられることはない…。

群れで生きるイワシ。各々は小さく弱いけれど、群れの強さによって自然界で生き抜く。その生態の不思議や面白さが写真のようなきれいな絵とともに1冊の作品になっています。そして **な・な・な・なんと…**



なんと…2026年の大学入試 共通テストの国語の問題

絵本「イワシ」から出題されたそうです。

子ども向けに作られている絵本は、当前ですが幼児にわかりやすくその文章は書き上げられています。また「かがく」は事実しかなく、その内容は情報過多にならないように精査されています。図鑑ではなく、ストーリーを通じて生物界の驚きや発見を感じられる絵本だからこそ、短い文章に詰め込まれたその内容をじっくり読み取る問題として採用されたのかもかもしれませんね。大学の入試問題になるとは驚きです。

教科書に使われている絵本(民話や昔話)がたくさんあるのもうなずけます。科学絵本に限らず、**絵本は、楽しみながら子ども達に知識を与え、読み解く力の土台を築き、豊かな感性を育てます。**

子どもたちと一緒に大人もぜひ、絵本時間を楽しみましょう。

